

## 令和7年度 第2回宇治市新型インフルエンザ等対策行動計画策定委員会有識者会議

日時：令和8年1月16日（金）15：30～16：30

会場：宇治市産業会館3階 第一研修室

参加者

協議会委員：幸道委員（オンライン）、重見委員（オンライン）

田中委員、藤田委員、岩崎委員、西村委員

傍聴者：報道関係1名

事務局：宇治市健康づくり推進課、危機管理室

次第

1. 開会
2. 部長挨拶
3. 報告事項
  - 1) 京都府内で発生した高病原性鳥インフルエンザ発生についての報告
  - 2) 質疑応答
4. 議事
  - 1) 宇治市新型インフルエンザ等対策行動計画の最終案について
  - 2) 市民意見の聴取方法について
  - 3) 意見交換
5. 閉会

### 【会議内容】

1. 開会

2. 部長挨拶

■前回、10月1日に第1回宇治市新型インフルエンザ等対策行動計画策定委員会有識者意見聴取会議を開催させていただきました。様々なご意見を賜りました。

その後、議会報告や、パブリックコメント等を実施し、宇治市としての検討を重ねてきたところです。

本日は、最終案を宇治市として固めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

3. 報告事項

1) 京都府内で発生した高病原性鳥インフルエンザ発生についての報告

報告者：委員

■亀岡市における高病原性鳥インフルエンザ発生に関わる防疫措置について概略を述べさせていただきます。亀岡市の約28万羽を有する養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生し、12月24日より防疫措

置を実施しました。

京都府職員 4700 人を含む、延べ人数 6700 名の職員を動員し、防疫措置の従事者は、鳥の殺処分、汚染物、物品の処理等の業務を 4 時間のローテーションで実施、健康観察ユニットは、6 時間のローテーションを組み、医師 1 人を含めた 16 名で対応しました。

初日は想定した作業が進まず、10 日以上対応が見込まれると思われましたが、手順の改善等により、作業効率が上昇したため、12 月 30 日の午前中に防疫装置が完了しました。

最終的に課題として残ったことが二点あります。

一点目に、初動体制において、鳥インフルエンザの対応が 20 年ぶりのため、当時の状況を知っている職員が少なく、初動時の作業が思ったより進まなかったことです。訓練をどれだけ実施していても、初動時はなかなか軌道に乗ることができなかつたので、さらに訓練等をもう一度見直し対応できるようにしたいと考えております。

二点目に、年末の寒い時期での作業や、殺処分等、極度のストレス負荷がかかる作業のため、健康観察ユニットでは、作業前に、血圧の高い方や基礎疾患のある職員などを事前に把握しています。

基礎疾患のある職員は、極度のストレスを避けるため、駐車場の見守りや伝達など、軽作業に従事してもらっていますが、駐車場の見守りは、寒い屋外での従事となるため、高血圧の方には、かなりのストレス負荷がかかったと聞いております。発生時期の気候に応じて、基礎疾患のある職員が従事する作業内容を考慮していく必要があることや、高血圧などの基礎疾患のある職員は、初めから従事していただかないなどといった配慮が必要かと感じました。以上で報告をおわります。

## 2) 質疑応答

### 委員

■お疲れ様でした。発生したのが、年末であったということで、非常に大変だったと思います。

従事された方の健康管理という点で、防疫措置の終了後から 10 日間待機する必要があり、従事後に職員が体調不良になった際の一般的な診察依頼があったが、年末年始だったので、情報が入ってきたのは年明けすぐでした。1 月 9 日までが待機期間であることを含めて、年明けすぐに医師会の先生方にも情報共有を行いました。

訓練をしていても、実際には、天候や季節等、いつ発生するかわからないので、そういう点が大変だと感じました。そして、今回のこの新型インフルエンザ等の対策に関しても訓練をどのように実施していくか、今後議論していく必要があると感じました。

### 委員

■地域によっては、足を捻挫した人が整形外科に受診した際に、鳥インフルエンザの防疫措置に従事していたということを聞いて、病原体を運んでいるのではないかとということで、診察を渋られたといったことも聞いております。鳥から人への感染はないということを、認識していただき、受診を快く引き受けていただけるような体制づくりも必要であると感じました。

#### 4. 議事

##### 1) 宇治市新型インフルエンザ等対策行動計画の最終案について

報告者：健康づくり推進課 三好副課長

資料1 「宇治市新型インフルエンザ等対策行動計画（第2版）最終案」

資料2 「有識者意見一覧」

資料3 「素案からの修正箇所一覧」

資料4 「新型インフルエンザ等対策行動計画（第2版）初案に対するパブリックコメントでの市民意見一覧」に基づき報告

##### 2) 市民意見の聴取方法について

報告者：健康づくり推進課 永池課長

■市民意見の聴取方法と、パブリックコメントの結果を説明させていただきます。意見募集期間は、令和7年11月16日（日）から12月15日（月）までの1か月間を設けました。Eメールと市民の声投書箱に2名の市民から4件の意見をいただきました。今回の市民意見を踏まえて、修正した箇所は2か所となっております。

##### 3) 意見交換

委員

■基本的な質問ですが、2名の市民から意見があったということですが、この対策行動計画を読まれての意見ということでしょうか。

事務局

■はい、そうです。新型インフルエンザ等対策行動計画（第2版）初案を、市ホームページおよび公共施設に設置しております。宇治市では様々な計画等がございますが、同じような手法でパブリックコメントを実施しております。

委員

■この対策行動計画が策定されたとしても、市民などの一般の方は、この対策行動計画を全て読み込むことは難しいため、例えば、概要をわかりやすくまとめて、市のホームページ上に掲載し、質問を入れると必要な対策に沿っていけるような運用・体制づくり等を考えておられるのかお聞きしたいと思います。

事務局

■計画は、作成することが目的ではなく、いかに市民に浸透していくかということが非常に大事だと思っておりますので、周知方法等については丁寧に行っていきたいと思っておりますので、ご意見頂ければありがたいと思っております。できるだけ多くの市民の方に、この対策行動計画があるということをまず知っていただき、内容においても、ご理解頂けるような方向で、周知を図っていきたいと考えております。具体的には、市ホームページに掲載したり、できるだけこの対策行動計画が市民の目に触れていただける機会が増えているようにしていきたいと思っております。

委員

■資料として、対策行動計画の最終案をいただきましたが、本日の有識者会議後に再度修正を行っていくということでしょうか。

事務局

■本日の御意見や、内部的な調整等も含めた上で最終案を固め、議会等に報告しながら、策定していく方向となっており、年度内には策定したいと考えております。

委員

■最近、SNS上で色々な詐欺やフェイクニュース等があると思いますが、以前、鳥インフルエンザ関連でもあったと思います。正確な情報をどれだけDXでつなげていくかということも必要ですし、これは事実ではないということも、はっきりと伝えていかないと、面白半分というようなことはあってはならないことだと思いますので、難しいことだと思いますが、意識していただきたいと思います。

事務局

■ご意見をいただいた内容については、36ページに記載しておりますが、疑・誤情報に関する啓発ということが重要になると思っておりますし、そういった情報をどのような方法で共有していくのかについては非常に重要だと思っております。担当部署だけでは難しいところもありますので、庁内で連携しながら、また、京都府・保健所含め、どのような方法が有効かということについて、引き続き協議をしながら進めていかないといけないと思っております。

委員

■ただそれが難しいという時代になっているということですので、そこをしっかりと理解しておかないといけないと思います。

事務局

■ご意見の通りで、なりすまし等の問題もございますので、行政からの正確な情報をいかにキャッチしていただくかが大事であると思っておりますので、その点は我々も十分認識した上でやっていきたいと思っております。

委員

■新型インフルエンザ対策行動計画の策定について、立場上、他市町村の有識者会議等に出席させていただいておりますが、宇治市のこの対策行動計画については、かなりのボリュームはありますが、必要などころで表を用いて掲載したり等、非常に読みやすい対策行動計画になっていると感じております。ただ、これをホームページ等で示すとき、市民がどのように行動し、対応すべきか、ということに関して、一枚もので分かりやすく図にさせていただくと、皆が分かりやすいのではないかと思います。こういった質問は、この部署にという場合、一つの部署に一点集中すると非常に大変ですので、保健所、京都府、宇治市

など、各質問の内容に応じて、関連する部署に質問していただくという形にすれば、集中する形にならずに、対応がスムーズになるのではないかと感じております。実際に有事は、市民がかなりパニックになって電話してこられると思いますが、うまく整理していただいて、アルゴリズムのような形で対応の流れを掲載していただくと分かりやすくなるのではないかと感じました。

#### 事務局

■ご意見ありがとうございます。例えば感染対策編であれば、こういう質問はこうなります、こういうところに情報があります等、なかなか一枚ものでは難しい場合は、章ごとに分けることになるかもしれませんが、フロー図のような形を用いて、全体像がわかるような媒体について、検討してまいりたいと思いますので、またお知恵を貸していただけたらと思いますのでよろしくお願いいたします。

#### 委員

■火葬についてですが、対策行動計画の中では、受け入れの上限を超えれば、埋葬となることについて、実際的に、亡くなられた家族の気持ちから言えば、早く火葬してほしいと思われるでしょうし、その辺りについて、もう少し具体的にしていかなければならないのではないかと考えています。

#### 事務局

■火葬の問題は非常に大事な問題でありますし、人間の尊厳の問題でございますので、ご遺族の方にも配慮しながら行うことが大事だと思っております。97 ページに、埋葬火葬の特例等を表示しておりますけれども、宇治市の斎場を中心に、火葬を執り行いますが、感染症の有事におきましては、全国でそういった火葬の必要性が生じることからも、非常に難しい課題であると思っておりますが、尊厳に配慮しながら、我々も肝に銘じながら、応用も含めて、円滑な実証が大事であると思っております。

#### 委員

■今回、新型コロナで、色々な経験をしてきました。新型コロナ経験した中で、今後新たな感染症が出てきても感染経路がわからないということはないのではないかと考えています。新型コロナが予防できたように、我々は経験をしてきたので、それをいかに早く実行していくかが大事だと思っております。

大正時代 1910 年代ぐらいに、スペイン風邪と呼ばれたインフルエンザが流行した時期に、予防する方法として、「手洗い、口を覆う、人から離れる」ということが言われていましたが、100 年経っても何も変わっていないということからいうと、本当に基本的な予防対策を、いかにきちっとやってもらうかが重要だと思っております。行動計画というのは行政が実施していくものではありませんが、実際に市民の方々が、予防対策をきちとできるようになれば、一気に感染者数が減少すると思っております。

行動計画ができたけれども、この後、宇治市として、どのように広く啓発していくか、それが行動変容につながるようにしていけないといけない。これまでの新型コロナのことを考えると、一切ストップしたわけではなく、自主的に皆さんが動くことができるという、よい国民性を利用しながらできるとよいと思います。

## 事務局

■日頃からの備えがとても大事であると思いますし、第1回の有識者会議の時にも、手洗いの重要性について、マニュアル等を記載すべきというご意見をいただきまして、最終案では資料編に記載させていただいておりますが、やはり日頃から手洗いなどの感染対策が有効であるということ、子供から大人、高齢者まで普段から心がけていただくことがとても大事だと思っております。

危機管理対応では、自宅での備蓄は約1週間分必要などと言いますが、そういったこととあわせて、できるだけ普段から心がけていただくように進めていきたいと思っております。

さきほど、人間の尊厳に関するご意見もありましたけれども、人権の擁護の立場でいかがでしょうか。

## 委員

■火葬に関する人権擁護という内容ではないのですが、人権擁護委員での相談活動の際に、前回の有識者会議でもお伝えしたと思いますが、電話で相談されるため、相談者が目の前にいらっしゃらないので、相談を受ける側が簡潔に分かるような内容の資料があればと思います。相談者の方は、こちらが冷静に説明しても、なかなか理解していただけないことが多いので、私たちの普段からの相談活動の研修等も当然必要ではありますが、相談を受ける側の私たちが見て分かりやすい資料があると対応しやすいと思います。

## 事務局

■準備期、平時の備えに関する市民周知をどうしていくか、また、初動期の早い段階での動きが大事だと思っております。ご意見いただきました資料の内容については、いろいろな各方面とご相談しながら作成をしていきたいと思っておりますので、できるだけ多くの方に、普段から心がけていただけるような資料や、周知啓発をさせていただきたいと考えております。

## 委員

■先ほどおっしゃったように100年前と基本的な予防対策が変わらないというご意見がありましたが、学校での支援もさせていただいている中で、新型コロナが過ぎてしまった今は、喉元過ぎればなんとやらで、子供たちの手洗いもおろそかになっていますし、危機感というのも薄れています。しかし、今こそ手を洗うなどの基本的な予防策を習慣として身につける時期だと思います。あまり不安感をかき立てるようなことは必要ないと思いますが、基本的な予防策を再確認し、身につけることの大切さを発信し続けたいと、基本的な予防策（手洗い、マスク等）は軽視されていくように思います。

## 事務局

■今年度においてもインフルエンザが早くに流行しておりますし、感染症は必ず流行の時期がありますので、そういった時期を、啓発を実施する機会にしながら、やはり行政からもそういった発信を、学校、保育所、幼稚園、含めまして実施していく必要があると思っております。計画は、準備期が大切だということで、今回は準備期を充実したような計画になっておりますので、行政としても、引き続き啓発を実施していきたいと考えております。

#### 委員

■前回の有識者会議でも発言しましたが、まずマスクだと思います。感染症が流行しているなと思ったらマスクを着けていただく。今回の有識者会議でも何名かはマスクをされていますが、何年か前であればマスクを着けることはなかったのではないかと思います。新型コロナを境にマスク文化というのが定着したと思います。いつもマスクをしていると、夏の暑い時期は熱中症の危険性もありますので、感染症が流行ってきたと思ったら、学校の先生が「マスクをしましょう」などと周知するなど、そういったことが大事かなと思います。あと、市民の方に対策行動計画の冊子をいかに見ていただくかという考え方でいうと、Q&Aなどを用いるとよいかと思います。全て網羅するのは難しいと思いますが、例えば、海外から怖い感染症が流行しているというふうに聞いていますが、37度ぐらいの熱が出ました。そういうときはどうすればいいか等の具体例があったりすると、市民の方にも入りやすく理解してもらいやすいのではないかと思います。

#### 委員

■新型コロナに関する電話相談が記録として残っているのであれば、どういった質問内容が1番多かったのかという傾向がわかってくるとと思います。思うところは皆同じなので。

#### 事務局

■新型コロナの相談時は、府が作成されたQ&Aに合わせて市としても回答していたというところはあります。

#### 委員

■基本的に感染症なので一緒だと思います。感染が広がるとしたら、下痢が広がるというよりは、呼吸器感染症の方が圧倒的に広がりやすいと思います。あと、話は変わりますが、この計画の内容をC h a t G P Tで要約や表を作成したりすることもできます。

#### 事務局

■色々なことを活用していきながら、いかにして効果的に市民の方に周知するかと考えております。

#### 委員

■先ほど、平時こそ感染対策等の啓発や認識が必要だといったご意見をいただきましたが、平時から余り強く言い過ぎると、人間の受容体とよばれるリセプターが受け付けなくなってきました。感染の蔓延期ではない時期に強くいいすぎると、起こるかもしれないが、結局起こらなかったのではないかという、「オオカミ少年効果」と呼ばれるようなことになってしまい、本当に必要なときに反応することができなくなるので、これから流行する時期をよい機会と考えて、その時期にしっかりと啓発して呼びかけることが必要だと思います。それは、行政、保健所も含めて、必要なときにきっちりとした正しい情報を市民に流して、お伝えするということが必要かと思いますが、宇治市と連携しながら情報発信してまいりますのでご指導いただけたらと思います。

#### 委員

■恐らく習慣化ができていないということが大きな問題だと思います。朝起きて、歯を磨いたり顔を洗ったりということを忘れることはありませんよね。習慣化ということが大事なのではないかと思います。小さい頃から、きちんと習慣化すれば、外から帰ってきたら手を洗うなど、昔から言われていることを大人がしないので子どもは見習わない。家庭で広がって学校で広がるということになってくる。まずは、感染源を持ち込まないとか持ち出さないということ共に、手洗いやマスクについてもとても大事なことだと思います。マスクに関しては、インフルエンザが流行している時期は、電車に乗ると、ほとんどの方がマスクをされていますよね。コロナ前はなかったことだと思いますので、それなりに習慣化しているのではないかと思います。

#### 委員

■基本的な予防行動がベースとしてあることを前提にして、それをある程度どの段階まで上げて、強化していくかといった、2段階3段階を踏まえた対策を進めていきたいと思っております。

#### 委員

■パンデミックがなぜ起こるのか、私は医学的には詳しくはありませんが、人間の免疫力があるラインを下回ってしまったら、どのようなウイルスに感染しても、集団で次々に感染していくというのが、このパンデミックだと思います。ですから、これは必ず起こる。先ほど藤田委員がおっしゃったように、1910年代にスペイン風邪が流行し、それを経験して、人類は、例えばマスクや手洗いなどを行っているけれど、それが薄れていくということの繰り返しだと思います。これだけの人が動くようになったら、世界中の人間の免疫力がある程度のラインを下回ってしまったら、パンデミックは起こってしまうということが前提でやっていかなければいけない。そのウイルスが、コロナのように、非常に感染力が強い、死に至るようなものであるのかないのかは別として、必ず起こるということが前提ですから、常にそういった意識を持ちながら市民生活や、いろんな経済活動をしていく必要があると思います。免疫力がこの程度、落ちていることがわかる医学的な統計のような、センサー等をどこかに張りめぐらせておくような方法はないのかなというふうに思っております、計画の策定には具体的に関係はないと思いますけれども、何か調べていただけたらというふうに思っております。

#### 委員

■おっしゃったようにもともと感染症のパンデミックについては、新しいウイルスへの抗体や免疫がないので、かかってしまいパンデミックになってしまうということです。それを何回か、繰り返す間に、抗体が出来上がって、免疫が出来上がってくるので、だんだんと感染の波が減っていくのですが、コロナウイルスのように変異をしていくと、免疫をくぐり抜けていくので、春と冬に起こっているというのが現実だと思います。また、年齢を重ねると、関節や脳と同じように、免疫においても老化していくので、同じワクチンを打っても、若い人と高齢者の抗体のつき方が違ってきます。今後、恐らく倍量のインフルエンザワクチンが認可される方向にあたりるので、行政がワクチンを接種しましょうという啓発をして、ワクチン接種に反対の方もおられるかもしれませんが、強制するものではないので、納得した上で接種していただく。また、行政として、ワクチン接種の助成等、実施していただきたいと思っております。

事務局

■新型コロナの経験を経て、ワクチンの重要性については、我々も非常に認識しております。市民の方に、いかに円滑に接種していただけるかというところでは、宇治久世医師会等のご協力を得ながら実施させていただきました。市民の方へ正確な情報をお伝えし、検討して接種していただくために、その検討材料をしっかりと提供しながら、円滑に実施できるよう、医師会と連携しながら実施させていただきたいと思っております。

委員

■新型コロナのワクチン接種については、集団接種と、医療機関での個別接種があったと思いますが、結果的にはどちらの接種が多かったのでしょうか。

事務局

■集団接種は、土日で実施でしたので、個別接種の方が多い結果でした。休日急病診療所の運営も含めて、先生方には大変お世話になりました。

委員

■パンデミックという言葉が出ておりましたけれども、パンデミックというのは、滅多に起こらない大変な爆発ですので、その前には、アウトブレイクという言葉があります。少し流行しているのは、アウトブレイクで、それからその国だけで限局的に起こっているのは、エキデミックという言葉がありまして、それが世界中に起こるのが、パンデミックです。今回、新型コロナでパンデミックが起きましたので、その言葉に親和性があるのかもしれませんが、そういうものではなくて、正しく恐れるというのが大事だと思います。

委員

■先ほど私が申し上げたのは、パンデミックが起こらないようにという意味でお伝えさせていただきました。

5. 閉会

■今後のスケジュールについて

本日いただいた意見を参考に、庁内で調整した後、3月の議会で最終案として報告を行う予定。

以上